



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 第7回昭和大学学祖祭が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

第7回学校法人昭和大学学祖祭が、5月27日(日)午後1時から、上條講堂で本学関係者、職員および学生約500名の出席のもと盛大に開催されました。学祖祭は本学学祖である上條秀介先生のご遺徳を称え偲ぶとともに、本学関係者が一同に会して親睦の絆をより深めるために平成23年度から開催され、今年度で7回目になります。

当日は、学祖祭に先立ち、法人役員と上條家関係者が都立多摩霊園の上條家墓をお参りし、小口勝司



理事長が学校法人の事業報告ならびに事業計画を学祖に墓前報告しました。

学祖祭は本学管弦楽団の前奏に引き続き、久光総務担当理事の司会で始まりました。小出良平学長の挨拶に引き続き、小出学長から平成29年度上條奨学賞が授与されました。歯学部からは、口腔解剖学講座の大塚裕忠講師(研究業績)と歯科理工学部門の宮崎 隆教授(教育功績)が表彰されました。引き続き平成29年度昭和大学学術研究奨励研究者表彰が行われ、歯学部から学術研究諸活動で高齢者歯科学講座の磯部明夫助教、および海外留学諸活動で歯科補綴学講座の吉田裕哉助教(歯科)が表彰されました。昨年度から新しく設けられた昭和大学学業成績優秀賞を、歯学部からは以下の5名が受賞しました。

岩瀬りさ(2年), 山田明佳(3年), 家泉裕香(4年), 大竹 開(5年), 鈴木涼夕風(6年)(敬称略)

小口理事長が平成28年度の事業報告と平成29年度事業計画の概要を説明し、全職員が一致団結して大学の発展を目指したいと力強く挨拶されました。

細山田明義名誉学長が、「昭和医科大学から昭和大学への移行」と題して、恒例の記念講演をされました。戦後のGHQによる教育改革、さらにご自身の入学当時からの大学の歴史を振り返り、先達が校地の拡張や学位審査権の取得などに苦労しながら薬学部を設置して昭和大学に移行し、さらに学園紛争や大学改革の大きなうねりのもとで歯学部を設置してさら

に発展してきた歴史を紹介していただきました。

式典に引き続き7号

館で懇親会が開催され、和やかな雰囲気の中、参加者は思い出話を弾ませました。



## 平成29年度父兄会総会が開催されました

教育委員長 美島 健二

平成29年度父兄会総会が、6月10日(土)午後1時から本学上條講堂にて開催されました。総会では平成29年度の学校法人の事業報告と事業計画の概要が説明され、決算、予算の承認等が行われました。また、同日の総会に先立ちD6御父母説明会が午前11時30分より4号館5階500号室にて開催され、最初に宮崎学部長より歯学部教育の概要についてお話があり、次いで上條学生部長より学生生活における注意点などについて説明がなされました。その後、卒業判定について美島教育委員長、昨年度の歯科医師国家試験結果について船津D6チュータ委員長より説明がありました。加えて、卒後研修制度について荒木准教授より説明がなされ、最後に歯科病院の研修プログラムについて長谷川教授より詳細な説明がなされました。総会終了後は各学部の部会が開催され、多数のご父兄の方々に御出席頂くことが出来ました。歯学部会では、宮崎学部長から歯学部教育の現状について説明がなされました。次いで、上條学生部長からは学生生活についての報告がなされました。また、美島教育委員長からは進級判定についての説明がなされました。その後、7号館の50年記念館に会場を移して4学部合同の懇親会が開催され、こちらにも多数のご父兄の御参加があり、教員との和やかな交流が行われました。



## 上條奨学賞(教育功績)を受賞して

歯科理工学部門 宮崎 隆

このたび「社会に必要とされる歯科医師育成のための歯学部カリキュラムの策定とその推進」というテーマで、平成29年度上條奨学賞(教育功績)を受賞しました。平成15年に歯学部長に就任後、昭和大学の建学の精神ならびに教育理念を具現化し、国民の健康長寿に貢献できる歯科医師を輩出するために、教育職員一丸となって教育改革を進めてきました。このたびの受賞は推薦していただいた美島健二教育委員長をはじめ、歯学部の全職員の支援のお蔭と感謝しています。

医系総合大学の環境の中で、本学の最大の特徴であるチーム医療教育を始め、特色ある教育を遂行してきました。新しい資質を身につけた多くの意欲ある卒業生を輩出することができました。今後卒業生が地域医療の現場で国民の健康に貢献して活躍することが楽しみです。教育改革には終点はありません。今後とも歯学部の教育が益々発展するように微力ながら



精進したいと思っておりますので、関係者のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

## 上條奨学賞(研究業績)を受賞して

口腔解剖学講座 大塚 裕忠

古代ギリシャ哲学を学ぶものは、後世4科と呼ばれる学問をよく習熟すべしと、プラトンは説いています。私はPh. Dの称号を頂いているにも拘らず、哲学どころか、4科についても乏しい知識しか持たない未熟者です。今回の受賞はこの未熟な私に、より精進せよとの叱咤激励と受け止めております。

古今を問わず、世界には優秀な科学者は数多くおりますが、真理を極めた人は未だかつておりません。先日、長崎の原爆資料館を見学し、改めて人間の愚かさや科学者の無力さを認識させられました。我々が求めるものは何なののでしょうか。

末筆とはなりますが、普段の生活を支えてくれる家族や癒しをくれる我が家の犬猫たち、日々お世話になっ



ている口腔解剖学講座スタッフの皆様、研究を支えてくださっている研究活動委員会や動物実験管理室の皆様、共同研究者の先生方、私が研究へと方向転換するにあたって後押ししてくれた友人たち、常に新たな刺激を与えてくれる学生の皆さん、そして、私の尊敬する恩師であり、超えるべき目標である中村雅典教授にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

## 学術研究奨励賞を受賞して

歯科補綴学講座 吉田 裕哉

このたびは、海外留学諸活動奨励研究者にご選出くださり心より感謝申し上げます。また、ご選考頂きました諸先生方に改めて深謝いたします。私は、大学院時代より一貫して睡眠時ブラキシズムの研究に取り組んでおり、この度南カリフォルニア大学に留学させていただくこととなりました。初めての異国の地での生活ということもあり、不安な点も多くありますが、南カリフォルニア大学には当講座より諸先輩方が過去に留学しており、先輩方より当時のことを多く教えていただき、非常に心強く感じております。南カリフォルニア大学では、現在当講座で進行中の睡眠時ブラキシズムに関する診断・治療方法に関する研究を継続して遂行させて頂く予定です。このような留学の機会を頂きましたことは、研究の具体的な技術指導を頂きました当講座の馬場教授、顎関節症治療学部門の菅沼准教授を始めとする研究チームの先生方、その他、支えて下さった全ての方の深いご厚情の賜物であると存じます。

末筆ながら、これからも微力ではございますが、歯科補綴学の発展に尽くして

まいりたいと存じます。今後とも、皆様方の尚一層のご指導をお願い申し上げます。



## 受賞

広報委員長 中村 雅典

アメリカ睡眠歯科学会 Student Research Award  
幸塚 裕也(歯科麻酔学部門)  
第37回 日本歯科薬物療法学会学術大会  
優秀発表賞 唐川 亜希子(歯科薬理学講座)

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

7月3日(月): 夏季スポーツ大会壮行会  
7月23日(日): 歯学部オープンキャンパス

## 学術研究奨励賞を受賞して

高齢者歯科学講座 磯部 明夫

このたびは学術研究奨励賞を賜り、ありがとうございます。私は大学院時代から義歯支持粘膜の性状と疼痛の関係の研究に関わってきました。疼痛は義歯装着患者にとって最も不快で重要な臨床症状であり、有床義歯の機能回復の度合いや治療結果に直結します。特に近年では、



CAD/CAM による新しい製作方法が出現し、有床義歯の分野でもジルコニアやコバルトクロム合金のような薄くて硬い材料が使われるようになってきました。これらの材料は装着感が良好ですが、チェアサイドでの調整が困難である上、薄いため、口蓋の形態や粘膜性状(厚さ・硬さ)の評価を誤ると調整時に義歯床が穿孔する可能性もあります。そのため、義歯支持粘膜の疼痛発生時の三次元有限要素モデル(FEAモデル)の解析値と口蓋床による実測値の比較検討を行うことで、患者ごとの適切なリリーフ(量・範囲)の決定を可能にする手法を確立したいと考えています。

このような受賞の機会を頂きましたことは、佐藤教授をはじめ諸先生方のご指導・ご支援の賜物であると深く感謝しております。今後も微力ではありますが、臨床・研究・教育に励みながら高齢者歯科学の発展に尽くしてゆきたいと思っておりますので、今後ともご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

## 昭和大学白菊の集いが開催されました

口腔解剖学講座 柳澤 伸彰

平成29年度昭和大学白菊の集いが、6月3日に昭和大学50周年記念館で開催されました。白菊の集いは、医学部・歯学部の人体解剖教育のために、死後に自分の身を献体として提供していただける白菊会会員の方々に感謝の意を込めて、毎年この時期に行っています。

当日は天候にも恵まれ、医学部会員102名、歯学部会員68名の計170名(同伴者含む)が参加されました。この集いは医学部と歯学部が交互に担当しており、今年度は歯学部が担当であり、歯学部2年の学生20名が会場内外の道案内や誘導に活躍していました。歯学部口腔解剖学講座の中村雅典教授の開会の辞により会が始まり、続いて、これまでにご献体いただいた物故会員の方々のご冥福をお祈りするため出席者全員で黙祷を捧げました。小出良平学長、小川良雄医学部長、上條竜太郎歯学部学生部長が挨拶され、白菊会会員への感謝の言葉が述べられま

した。その後、歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生部門の弘中祥司教授による「口からはじまる健康長寿」と題した講演をしていただきました。ユーモアも含めての講演に皆熱心に聞き入っており、講演後には多くの方から質問がありました。最後に医学部解剖学講座肉眼解剖学部門の大塚成人教授から閉会の辞があり、来年も元気で再会することを約束して、盛会のうちに終了しました。



## 昭和大学学業成績優秀賞を受賞して

歯学部6年 鈴木 涼夕風

昨年度から授与が始まったこの賞を2年連続で受賞できたことを大変光栄に思います。また、この賞を受賞できたのは、友人や先生方、家族など、周りの方々の支えがあってこそだと感じております。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

中学生の頃からの夢であった「歯科医師」に、着実に近づいていることに喜びを感じつつ、国家試験に合格したその先の新たな夢が見つかり、尚一層精進して参りたいと思っております。

最高学年に進級した現在、私が願うことは「学年全員の卒業と国家試験合格」です。残りの学生生活は、皆様のご協力に感謝しながら、国家試験対策委員会代表として、学年全体を支え、全員で合格できるよう、一所懸命に頑張ります。



## 昭和大学学業成績優秀賞を受賞して

歯学部5年 大竹 開

この度はこのような賞をいただき誠にありがとうございます。4年次は学年の最後にCBTとOSCEがあり、1年次から4年次までの集大成とも言える学年でした。

CBTの対策をするに当たって、基礎系科目の知識というベースがあると臨床系科目の復習がとてもしやすく、また一科目に使う復習の時間が短くなるためにより深い知識を学ぶ時間が取れました。

5年次では4年次までで学んだ座学の知識をもとに臨床実習を行うことで、座学の知識がどのように臨床の現場で用いられ、診査診断から治療まで筋道を立てて行われているのかを学ぶとともに、来年に控えている国家試験に向けて知識の整理と関連づけを行なっていきたいと思えます。

## 昭和大学学業成績優秀賞を受賞して

歯学部4年 家泉 裕香

この度は学業成績優秀賞を頂き、大変嬉しくまた光栄に思います。充実した大学生活を送ることができるのも、先生方、同級生の友人達、家族の支えのおかげであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。3年次は臨床科目と顎模型を使っての実習が増えましたが、「知っている」と「治療ができる」には大きな差があることを痛感し続ける1年間でした。

今年は特別な配慮の必要な小児・高齢者歯科も始まり、より歯科のやりがいや面白さ、奥深さを感じています。CBTやOSCEも控え緊張感ある1年となりますが、立派な歯科医師を目指し、この賞に恥じぬよう日々の勉学と技術の習得に励んで参りたいと思えます。

## 大阪大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 角田 有里

大阪大学の第一口腔外科にて2週間という短い期間ではありますが、実習を行わせていただきました。臨床実習で一般の歯科診療で見ることのできない治療に興味を持ち、6年での選択実習でより深く学びたいと思い、口腔外科を選択しました。

大阪大学の施設は、外来と病棟に分かれているところは昭和大学と同様でしたが、特徴的な施設として口唇口蓋裂センターが歯科病院内にありました。口唇口蓋裂の手術を数多く執り行っている大阪大学では、専門の外来窓口が設置されていました。口唇口蓋裂センターでは、病棟での術前術後の管理とは別に、経過観察や固定装置の管理、手術時期の検討、ホッツ床の調整など口唇口蓋裂に対する処置を見学することができました。

手術見学では、滅菌ガウン・グローブを装着し、間

近で見学させていただいたことで、教科書だけでは理解しにくい部分も実際に見ることができ、

とても勉強になったと感じています。拔牙や骨折への処置、悪性腫瘍の除去だけではなく、口唇形成術や口蓋形成術、骨移植などの口唇口蓋裂に関わる手術を多く見ることができました。

5年次での臨床実習では口唇口蓋裂に対してどのような処置を行っているのか詳しく知る機会が少なかったため、良い機会となりました。口唇口蓋裂に関わらず、外来では様々な治療を行っており、疑問点が出ることも多々ありましたが、診療の合間に先生方に質問させていただいたところ、丁寧に教えていただくことができました。選択実習で、臨床実習ではなかなか見ることのできなかった処置や診療を経験したことで、専門的な治療への興味・意欲を高めることができました。

今回の実習にあたり、お世話になりました先生方へ改めましてお礼申し上げます。

## 認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医

小原 明香 (歯科麻酔学部門)

後藤 聡子 (歯科麻酔学部門)

今野 歩 (歯科麻酔学部門)

日本歯科麻酔学会 歯科麻酔認定医

石丸 由季 (歯科麻酔学部門)

齊田 瑠加 (歯科麻酔学部門)

吉田 歩香 (歯科麻酔学部門)

## 編集後記 口腔微生物学講座 深町 はるか

6月に入り、梅雨の季節となりました。この時期から、気温と湿度の上昇に伴い、細菌の増殖に適した環境になるため、細菌性食中毒の発生件数も増加します。食中毒の予防の基本、「つけない(清潔・洗浄)」「増やさない(迅速・冷却)」「やっつける(加熱・殺菌)」を守って、安全に夏をお過ごしください。

末筆となりましたが、お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様には、この場をお借りして深謝申し上げます。